

13. ● 8月19日(金) 芦別岳(1727m) 晴

・ウペペサンケ山のあと雨が続き天候回復まで待機させられた。一週間経ってやっと晴れ間が出るという予報で芦別岳へ登った。北海道の山旅はニペソツ山と芦別岳を登って終わりにしようと思っていた山なので、わくわくした気分だ。

・昨夜から降り出した雨は明け方まで降っていた。4時に目覚まし鳴って起床。外を見ると曇っているが雲の切れ間から芦別岳が頭を出している。今日は良い天気になるぞ！



新道登山口



・新道登山口には車が3台、数人が登山準備をしている。早いな！ 私も急いで支度をして5時25分に出発した。このところの雨続きと集中豪雨で、旧道に危険箇所があるというので新道往復のコースを取った。

・結構雲が多く、時折雲間から薄日が差す程度。コースタイム通り1時間40分で見晴台に着いたが、残念ながらガスがかかっていて展望はない。

・しかし登るに連れて雲がどんどん上がってゆき、鶯谷から半面山へと登るころにはすっかり晴れ、右手に木々の間から切り立った旧道の尾根が見え隠れする。



見晴台はガスがかかって



・半面山からはすぐ前に雲峰山とその後ろに芦別岳が頭を出して見える。



半面山から雲峰山とその奥に芦別岳

・小一時間で雲峰山に立つと、青空を背景に目の前に芦別岳の鋭い岩峰がそそり立ち、山頂に人影も見える。念願の芦別岳もあと少しだ。一週間待った甲斐があった。



芦別岳山頂には人影も見える

・山頂まではあと40分くらい。
途中の岩場は花がいっぱい楽しい行程だ。
ヨツバシオガマ、ウサギギク、エゾリンドウ、チシマフーロ、ウメバチソウ、オトギリソウなどなど。



・山頂には10時15分に着いた。5時間弱の登りだった。

- ・ 山頂は狭い岩場で、7、8人の登山客で一杯だった。北には北尾根の道がキレットへと続き、南には夕張岳が鋭く尖った山頂を突き出して聳えている。



北尾根の道がキレットへと続く

- ・ 北東に位置する富良野岳から続く十勝連山は、真っ白な夏雲に覆われて見ることが出来ない。足元遠くの草原には金色の毛に包まれた大きなヒグマが一頭のんびりと草を食んでいる。



南に聳える夕張岳

つい先ほどまで子連れのも熊も居たそう
だ。5年も続けて北海道の山を歩いてきた
が、山でヒグマに会ったのはこれが初めて
だ。良いお土産が出来た。登山客が増えて
山頂が手狭になってきたので、30分ほど
滞在してから名残惜しい山頂を後にした。



下の草原にはヒグマが



- ・ 登りではガスがかかって展望の無かった見晴台もすっかり晴れわたり、富良野盆地が一望され、その奥に十勝連峰がかすんで見えた。

5時間かけて登った芦別岳も下りは3時間ほどで下り無事駐車場に着いた。久しぶりでいい天気になったためか登山客が多く、下りでも10人以上とすれ違った。

・すっかり晴れ上がり真夏の猛暑。
振り返れば今登ってきた芦別岳が夏空を背にくっきりと聳えて見える。
汗まみれの着衣を全て脱いでキャンプ場の水道で洗濯し、車中にぶら下げて乾かしながら今日の宿泊地「かなやま湖」へ向かった。



・あらかじめ予約をしておいた「かなやま保養センター」が今日の宿。
久しぶりで畳の上で大の字で寝られるぞ。24号室、6畳の和室に落ち着いた。



・窓からはキャンプ場とその向こうにかなやま湖が見渡せる。天気は良い。

すぐに風呂へ。ここは温泉ではなく沸かし湯だが、キャンプ場を抱えて日帰り湯をしている。綺麗で大きくてなかなか良い風呂だった。夕食は「レストラン・モニターニュ」で6時から。それまで写真の整理やパソコンの整理、日記を付けたりして時間を潰した。

レストランには先生らしき男とその男子学生3人、別に男性一人と私の男性6人、メニューは串揚げ、煮物など和食風の6品。生ビール2杯でいい気分。7時過ぎに部屋に戻ってそのままバタンと寝入った。

・芦別岳は北海道で憧れの山の一つだったが、これを登り今年の北海道の山旅は終わることになる。最後に相応しい素晴らしい山に登ることが出来た。